

2021-No.4
Winter Issue

少林寺拳法

冬号

刮目

特集「刮目」



PROJECT DOUBLE CIRCLE 特別インタビュー
顔の見える「あの人」に楽しんでもらいたい
というのがボクの動機

FEEL THE ORIGIN「一葉目を覆えば泰山を見ず」

読者プレゼント～新春お年玉企画～

オザキは
一日も早く拳士の皆様が安全かつ安心して活動を再開できるよう
さまざまな対策に取り組んでいます。

Restart

2020年9月25日、共同プレスリリースを発表致しました。(以下抜粋)

PRESS RELEASE

少林寺拳法グループ、シキボウ株式会社、株式会社オザキ 2020年9月25日

武道の現場にも安全・安心を。
少林寺拳法グループが公認道着に
抗ウイルス加工『フルテクト®』を採用。

ウイルス除去・除菌
FLUTECT®
繊維上のウイルスや
細菌を除去します



■ウイルス感染価(PFU/mL)の比率



抗ウイルス加工『フルテクト®』を採用した道衣の最新情報はオザキHPより特設ページをご確認ください。

■お問い合わせ・ご注文は

少林寺拳法 オザキ 検索

OZAKI 公式Instagram

少林寺拳法オフィシャルサプライヤー

株式会社 **オザキ**

Tel.0877-33-3567
Fax.0120-30-5860

www.ozaki-sk.co.jp



メールアドレス info@ozaki-sk.co.jp

各ページのQRコードを携帯電話のバーコード読み取り機能で読み取ると当社ホームページをご覧いただけます。読み取れない場合はお手数ですがURLをご入力ください。



刮目

開祖語録の中に、「見切り」の重要性を説いた一節がある。それは武的要素として大事であると同時に、生きていくうえで重要な人生のコツであると言っているようにも聞こえる。

生きていく限り、目を覆いたくなるような悲劇や逆境も、ときとして眼前に現れるが、目を見開いてそれをしっかりとは見つめなければ、見切ることはできない。

この時代をしっかりと見切って主体的に生きていくために、我々は目を曇らせぬよう修行に励み、目を見開いて人や物事に直面する勇氣を持たなければならない。

CONTENTS

- 5 行事報告 第54回少林寺拳法全日本学生大会
- 6 FEEL THE ORIGIN 「一葉目を覆えば泰山を見ず」
- 8 LEADER'S NOTE
- 10 特集「刮目」
- 14 PROJECT DOUBLE CIRCLE
- 18 想 人づくりにかける熱い志
- 20 実 実に帰る
- 22 What's New
- 23 眼光紙背に徹す
- 24 高める
- 26 Meet 少林寺拳法
- 28 コラム
- 29 さぬき探訪日記
- 30 いごっそう日記
- 31 新米職員物語
- 32 Good Neighbors
- 34 少年拳士ガチャガチャ広場
- 36 読者プレゼント～新春お年玉企画～
- 38 編集後記



株式会社 **ヨシダ**
代表取締役 吉田信行

東京都葛飾区東新小洲5丁目14番7号 (〒124-0023)
TEL 03-3694-3751 FAX 03-3694-3753
info@kingyo-yoshida.com

第54回少林寺拳法 全日本学生大会 ～愛と平和～



2020年11月8日、日本武道館において「第54回少林寺拳法全日本学生大会（愛と平和）」（主催：全日本学生少林寺拳法連盟）が開催されました。

コロナ禍の中、「何のために実施するのか」そして「どのような形であれば、開催できるのか」などを考慮し、新型コロナウイルス感染症防止の十分な準備やリモート会議を重ねた結果、無観客にて実施する新しい様式の大会となりました。

当日は、全国から58大学476名がエントリーし、少林寺拳法連盟では、本年初となる全国規模の大会として、開催されました。

大会では、例年とは異なる点が多く、審判員は三人制を採用、本選のみを実施しました。順位づけはせず、基準点以上の演武に優秀賞を授与する形となりました。

感染防止対策としては、競技を午前、午後に分断して館内の換気を実施し、また参加者と審判員との導線をずらす工夫や館内での食事を禁止し、使用後の椅子を各自で除菌するなど徹底しました。

- 1：五輪改修後、初の全日本学生大会
- 2：審判は三人制
- 3：各所入口などにアルコールを設置
- 4：入館時には検温を実施
- 5：入館時、サーモにて検温
- 6：演武後のコート消毒
- 7：大学スポーツ協会（UNIVAS）による取材撮影
- 8：簡素化された表彰式



全日本学生連盟
大橋 知直 委員長

開催にあたっては、全日本学生少林寺拳法連盟大橋知直委員長を中心に、学生連盟がアンケートや議論を重ね、各大学代表者や審判への情報共有や意見交換を頻繁に行うなど、意識づくりの段階から工夫を講じました。それらの結果、当初の意義として掲げた、この特異な状況下での開催によって、大会は無事に開催され、今後につながる経験則や教訓を、後輩たちへ残すものとして得ることができました。

当日の大会の様子は、大学スポーツ協会（UNIVAS）のサイトにて閲覧可能です。
<https://www.univas.jp/article/21951/>



FEEL THE ORIGIN

SO DOSHIN ARCHIVES

担当／畔蒜 みく

一葉目を覆えば 泰山を見ず

突いたり蹴ったり、二人が向き合ったときだけの八方目では意味がない。全体の中に何かを感じる、感じられる、全体を通して部分が判断できる、そういうものが欲しい。家庭だって同じで、家族全体、家庭のもろもろを見渡せるようでなかったら、その家はうまくいきません。あることだけしかわからない、それじゃ家長であれ職場の長であれ、ついていくほうにしてみたら何とも頼りない。ですから、物事をトータルに見る訓練を常々においてしておくべきである。よく例に出しているが、森に入ってしまったら森全体は見えます。ある距離を置いて初めて森が見えるのであり、また比較したときに大木と小木といった区別も生まれる。しかも、そうした観察眼や分析力、判断力、物の見方といったものは、常日ごろに養わなかったら身につかない。

一葉目を覆えば泰山を見ず（一枚の木の葉でも目にかぶされれば大きな山も見えなくなるの意で、ちよつとした私心のために公明な心が曇ることのたとえ）で、自分の目に見えるところがすべて、君らの目にはそういう目ん玉しかないのと違うか。

1977年9月、本部職員への訓話



【世代を超えて】

宗昂馬師家は祖父、宗道臣の言葉に、何を感じ、何を見出すのか。

繋がる力を最大限に

2021年の始まりにあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、2020年における少林寺拳法グループの活動に対し、新型コロナウイルス感染症の影響下の中、ご理解をいただきましたことを感謝申し上げます。このような苦境にあっても、皆様のおかげで新しい未来へと繋がる絆を継続して作り上げることができたと考えております。

さて、本年は「繋がる力を最大限に」を私のスローガンとし、活動を展開してまいります。昨年は「ステイホーム」により行動範囲の制限を余儀なくされる日々が続き、多くのコミュニティの狭小化が急激に進みました。同時に、利己的な行動も見え隠れしたように思います。そのような中、人との繋がりや絆がどうあるべきか考えさせられましたし、人の質を磨き、繋がった縁を活かせる人でありたいと感じています。

これからも地域社会を持続させ、少しでも社会を良くしていくためには「自分のためだけ」から一歩踏み越え、誰かのために繋がりを創れる人財が今まで以上に必要とされるでしょう。

今回の開祖宗道臣の言葉から想起したのは、「土別れて三日なれば、即ち更に刮目して相待すべし」ということわざです。「日々鍛錬している者は、三日も会わなければ見違えるほどに変わっている」ということであり、いつまでも同じ先入観に捉われず、常に物事を見る目を更新することの重要性を示唆する言葉です。祖父の言う「物事をトータルに見る訓練」とは日々の努力の積み重ねはもちろんのこと、少林寺拳法の活動を通して私たち一人ひとりが、視野を広く視座を高く持ち、社会の中で今何が必要とされているのかを感じとり、実践していくことだと思えます。

失敗を恐れずにチャレンジすることで、新しいものに出会うチャンスの多い時代ですから、少林寺拳法が社会に必要とされるためにも、まずは私自身が楽しんでチャレンジできているか。本年も皆様と共に学び、歩み進めてまいります。



少林寺拳法三世師家
宗 昂馬

実践から学ぶ、
生きた知恵



『学び続ける』ための 仕組みづくり

川島 一浩

一般財団法人 少林寺拳法連盟 会長
少林寺拳法 正範士 八段
公益財団法人日本武道館 理事
日本武道協議会 常任理事・特別顧問
青少年育成香川県民会議 顧問

LEADER'S NOTE

Kazuhiko KAWASHIMA

・新年あいさつ

2021年新春を迎えるにあたり、謹んでお慶びを申し上げます。また、平素より「会報少林寺拳法」へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今後とも、誌面内容の充実に取り組んで参ります。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルスに翻弄された一年であり、日本のみならず世界中が激震した年でありました。とりわけ、接触・対面による濃密な人間関係の構築と技法の旨としている少林寺拳法は、深刻な影響を受けました。

支部長、幹部の皆さまにおかれましては、新型コロナウイルスウィルス感染症への予防策を講じながらの修練は、大変なご苦労であったと存じます。また、都道府県連盟をはじめ、各連盟での大会開催や各種行事を、オンライン化等の工夫を凝らし、運営をしてくださった全ての皆さまに、感謝と敬意を表します。

安全・安心に、少林寺拳法を楽しめる修練形態の確立は、少林寺拳法界全体にとって本年の急務であるとともに、永続的なテーマになると思っております。

・コロナ禍の2020年を経て

～実践で学ぶ、生きた知恵～

少林寺拳法連盟がコロナ禍から学んだこと

2020年は、コロナ禍による様々な制限が起きた反面、少林寺拳法連盟に所属する各連合体の心強い団結力を見ることができました。中学校連盟や高校連盟では、動画審査や発表形式によるインターネット大会の開催や、全日本学生連盟による、新型コロナウイルス感染防

止を徹底的に心掛けた全日本学生大会が行われました。また、支部長・監督研修会では、資料・動画配信を行い、各所属長の先生方には在宅での研修を行っていただきました。

このように、先生方だけでなく、学生も前向きに物事を捉え、各種行事の開催運営に携わってくださったことは、大きな成果であり、それを実感いたしました。

これらに実証された様に、これまでの少林寺拳法の世界では、タブーであったり、異端とされてきた事の中に、この難しい時代に対応するためのヒントや活路があるかも知れません。それらを踏まえて、今年は今ままで以上に、当連盟で活動する指導者の皆さまや、職員の自由な発想に耳を傾けるべき一年であるとも自覚しております。新たな価値の創造と可能性の模索に対して常に心を開き、関係各位と一丸となって少林寺拳法の振興普及に邁進する所存です。

・2021年の抱負

～辛抱強く、根気よく～

私が会長に就任してから5年、「指導者の魅力づくり」、「活気ある支部づくり」をテーマに、指導技術の向上に取り組んできました。拳士・保護者・各指導者の皆さまの意見に傾聴し、熱心に指導する指導者と拳士間の常識感に大きなズレがあることが分かりました。

そこで、指導者には、少林寺拳法の目指す「人づくり像」の再確認と、「常識の更新」、「体罰・ハラスメント防止」、「指導技術の向上」を呼びかけ、指導者、学生幹部の言動改善を促しました。今後も、指導者の情熱に加えて、変化する常識を更新しながら、魅力的な指導者で

あり続けるために「学び続ける」ための仕組みづくりを行ってまいります。

また、集合型の行事開催を見直し、近年の世情に合った、オンラインによる各種行事の運営など、「生涯修行」を前向きにできる少林寺拳法を目指して、活動を推進いたします。

常に変化が起こる昨今の世情にあつて、組織として成長を止めることは出来ません。動き、変化するしかないのです。先達の諸先輩方の様々な苦労があつて今日があり、その経験を積み重ね、紡いで行くことが、次代への最良のバトンタッチとなると思っております。

そして、少林寺拳法を修行する一拳士としても、少林寺拳法の様々な可能性を模索し、修行に勤しんでいきたいと思えます。



職員からの相談や提案を聞くことは欠かせない。

特集テーマ

刮目

激震の一年が終わり、余震の続く新しい一年が始まろうとしている。

この先の生き方・過ごし方を考えるにあたり、刮目すべきタイミングが来ている。

「かつもく」目をよくみはること。期待。
例文 「」に値する」「成果に」する「

SDGs

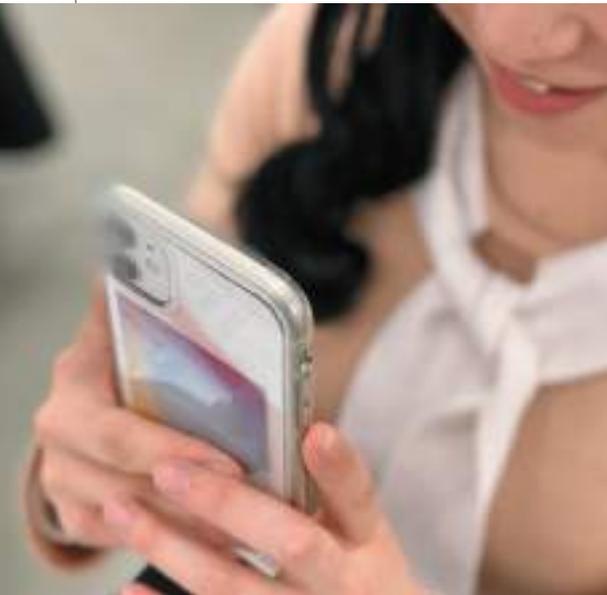
[エスディーゼーズ]

Sustainable Development Goals

持続可能な開発目標

国連加盟国は、2015年9月25日の総会決議により、持続可能な開発目標（SDGs）を採択した。この決議のねらいは、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰一人取り残されないようにするため、2030年までにこれら17の目標を達成することにある。

国連は、SDGsを支援するすべての取り組みを通じ、一貫したテーマとなるポジティブで希望にあふれた文言を作り出すことで、私たちが力を合わせ、同じ目標の達成に向けて前進しているという感覚を強めることを目的としてきた。それによって、よりよい世界を目指すという誓いに着想を与え、その実現を支援することが、国連のねらいである。（国連広報センターHPより）



RNAウイルス

[アールエヌエーウイルス]

ゲノムとしてリボ核酸（RNA）を持ち、突然変異によりゲノム情報を変化させるウイルス

「ゲノム情報の変化は、しばしばウイルスの免疫感受性、薬剤感受性、細胞指向性、宿主域の変化につながり、予防治療効果の低下や新興再興感染症の原因となる。」
（国立感染症研究所 HP より）

新型コロナウイルスはRNA（リボ核酸）をウイルスゲノムとして有する。2002年に深刻な被害を引き起こしたSARSコロナウイルスの遺伝子とよく似ている（8割程度）。新型コロナウイルスの抗体は2ヶ月程度で減衰するという調査結果もある。また、変化するRNAウイルスに対しては、その変化に応じたタイムリーな対策が求められることになり、治療法が確立されるには長期的な取り組みが必要となるだろう。

眼をこすって観ておきたい3つのコト



デジタル包摂

[デジタルほうせつ]

社会全体のデジタル活用能力を高める

「包摂」とは一定の範囲内に包み込むことを表す。オンライン会議・授業やデジタル書籍、映像のインターネット配信サービスなど、人々の生活は今後もデジタル世界に包み込まれていく。金融においてもデジタル包摂は進み、通帳やATMも今後は縮小されていくだろう。現金非対応の店舗もすでに出現している。

スマートフォンやタブレットなどの端末とネット環境さえあれば巨大なデータベースにアクセスできるため、裕福でない国でもオンライン化が加速している。

ネットを利用しない人は不便を感じる人が多くなるため、そういった人々に使い方を指南することも含めて、総合的なデジタル運用が社会全体の課題となっていくと見通される。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



変化する環境は、もしかしたら自分の特殊性を活かすチャンスかもしれない
 社会変容が劇的に進みつつある。その変化がまだ続くとしたら、我々は何を活かして生き抜いていくべきか。

達成まで10年。

ブレーキをかけられるSDGs

「持続可能な開発目標」(以下SDGs)は国連で採択されたもので、国連加盟国はその達成に向けて努力をすることになっている。その目標は17の項目(上図参照)で構成されている。地球・資源・文明をパッケージで捉え、その継続的な繁栄のために日々の活動を工夫しているという人類規模の取り組みである。

例えば、「7 エネルギーをみんなに／そしてクリーンに」や「13 気候変動に具体的な対策を」など、いくつかの目標に関連する脱ガソリンの動きは活発になりつつある。ガソリン車の新車販売廃止について、イギリス、フランスなどはずでに目標年を発表しており、日本も2030年代半ばには国内での新車販売を禁止しようとする動きがみられる。

ケンブリッジ大学のレポートによると、2020年時点での目標達成度は1位がスウェーデン、2位がデンマーク、3位がフィンランドであり、日本は17位となっている。達成期限は2030年である。

一方で、最近になって再びこのSDGsが取り沙汰されるようになった背景には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、17の目標達成に大きなブレーキが

働く懸念されている状況がある。

国連は、この感染症拡大がSDGsに及ぼす影響について、17の目標一つ一つについて分析、発表している。

例えば「6 安全な水とトイレを世界中に」については、いまだ全世界で30億人について自宅に基本的な手洗いをする設備がない、と報告し、新型コロナウイルス感染症の予防に最も効果的な手段が取れないと警鐘を鳴らしている。

地球・資源・文明の継続性にチャレンジする人類規模の取り組みが、新型コロナウイルスによって阻まれる可能性が出てきたことから、この感染症に打ち克つことは、少なからず、地球・資源・文明の未来を守る行為でもあると解釈することができるとが。

ウイルスに打ち克つとは

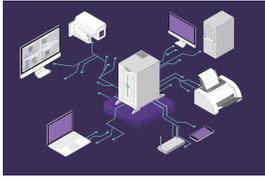
日本においては、緊急事態宣言を境に人々の生活様式が激変した。仕事・生活・娯楽…全ての側面において長い在宅時間を活用するため、デジタル化が進んだ。その加速度合いは2年分という説もある。もともとAI(人工知能)の発達とともに金融関係の仕組みは大きく変わると言われていたが、非接触に対する関心が高まる中、キャッシュレス決済が素早く浸



「具体的にはどんな取り組みをすればいいのか？」という問いに対する答えの参考として、政府が行う『ジャパンSDGsアワード』がある。第3回(2019年度)の本部長(内閣総理大臣)賞を受賞した北九州市にある魚町銀天街振興組合の活動を左記のQRコードより閲覧できるので、参考にしていただきたい。同組合は17の目標全ての達成に向けて活動しているが、17の中から目標を選んで取り組んでいる団体もある。

keyword リモート、クラウド

仕事、買い物、食事、レッスン、映画鑑賞…。自宅に居ながらにできることが増えた。人を家から出させるためには、利便性を越えた強い価値を打ち出す必要がある。



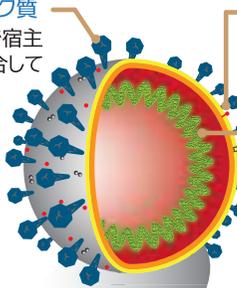
ネット上（どこにあるか解らないから雲の上＝クラウド）の大容量データに、手元の端末から通信・アクセスして利用する。公共の電波も通信容量が大きくなり、急激に普及した。今後、5Gが普及すれば更に加速するだろう。



新型コロナウイルスの構造

Sタンパク質

スパイクで宿主細胞に結合して侵入



Eタンパク質

新しいウイルスの形成や出芽（宿主細胞からの放出）に関与

Nタンパク質

ウイルスを複製するための最も重要な遺伝情報、RNAを取り込む

Mタンパク質

膜として全ての部位を一つにまとめる

— 名称の由来 —

スパイク（Sタンパク質）の形状が王冠（＝ラテン語でコロナ）に見えることから



【ウイルスと菌の違い】

まず、大きさで言えば、ヒトを地球のサイズに置き換えると、細菌はゾウの大きさであり、ウイルスはネズミ大であると言われます。細菌は単細胞生物で、自ら同じ細菌を複製して増えることができますが、ウイルスは細胞を持たないため、他の細胞に入り込まないと生きていけません。ウイルスによって入り込める細胞は異なります。

【細菌が原因の感染症】

結核、コレラ、ジフテリア、マイコプラズマ肺炎、赤痢、溶連菌感染症 など

【ウイルスが原因の感染症】

風邪、インフルエンザ、水ぼうそう、はしか、デング熱、エボラ出血熱 など

今後、道衣に加工予定のシキボウ社「フルテクト®」の効果については、上記よりプレスリリースをご覧ください。

keyword 抗ウイルス

透した。すでにオンライン診療も実働し始め、手術などの複雑な治療を遠隔操作で行う方法もアップデートされている。

新型コロナウイルスはSDGsの減速を招く可能性があり、デジタル包摂をさらに加速させようとしている。

これらに代表される各種の社会変容がいつか終息し、コロナ以前の生活に戻ってくる：という見通しは立ちそうにない。人々の生活様式を巻き込んだ文化レベルの変容は今後もますます続くと思うべきだろう。新型コロナウイルスはインフルエンザウイルスと同じRNAウイルスであり、時期や場所によって変質を繰り返す可能性が濃厚だからである。

この新種のウイルスに真に打ち克つ道とはどのような道か。

それはどうやらウイルスの撲滅ということではないようだ。変容していく社会に対応しながら、ウイルスを致命的な恐怖としないう方法を確認し、被害を生まないうように努める。そのために、人類の調和と叡智の供出が求められている。そういうことではないだろうか。

問われる真価。自覚すべき真価。

小林寺拳法の世界や文化に及ぶことで気になるのは、道場に足を運ぶことの価値、という問題だ。

家に居ながらにして色々なことができようになると、逆説的に「家に

居てはできないこととは何か」という問いが重みを増してくる。

利便性の枠外にあって、出かけていく価値のあるもの。直に触れる必要のあるもの。そう思われるために、修行の内容や効果、道場の環境などについて、今こそ立ち止まって考えてみる必要があるように思う。在宅で自由な時間を手にした人々に、わざわざその自由を割いて体験してもらうためには？ デジタル包摂の中で人々が受信する数々の情報に埋もれず、その価値を伝えていくためには…？

我々の真価が問われる時代の到来だと思ふべきであろう。

とはいえ、何も悲観的な話ではない。時代に問われて真価を発揮する前に、我々自身が小林寺拳法の真価を再確認するとき…と捉えればよいのではないだろうか。

ダーウィンの進化論では、突然変異とその形質遺伝の繰り返しにより新種は誕生するという。環境が変化したとき、その新種が持ち合わせていた特質が生きることでその種は生き永らえ、特質を生かせなかった種が淘汰される、と。

このことから言っても、変化の激しい時代に適応し、生き永らえるための極意は、自身の持つ特質に気づくことにあると思える。

小林寺拳法史に紡がれた幾重もの遺伝の積み重ねが強い特質を生み出し、この激震の時代に生き抜くための進化／真価となつて芽吹くのだと信じたい。

人が集まることの意味が変わろうとしている。
独自のコミュニティを創り、難しい時代にも人を惹きつけ続ける秘訣とは。
短パン社長、こと奥ノ谷圭祐社長の思考法は、これからの支部の姿に大きなヒントをくれるはずだ。

奥ノ谷 圭祐 Keisuke OKUNOYA

株式会社ピーアイ代表取締役社長。業種はアパレル。SNSを通じて自身の好きなことを発信し共感を生みながら、仲間・顧客との関係性を太く育てている。2020年3月より会員制コミュニティスペース「TANPAN LAB」を開設し、仲間・顧客に活動と交流の機会を提供している。著書に『「いいね」を購入につなげる短パン社長の稼ぎ方』『ヒトモノカネすべてうまくいく会社をつくる短パン社長のお悩み相談室』。

PROJECT DOUBLE CIRCLE 特別インタビュー

顔の見える「あの人」に 楽しんでもらいたいというのが ボクの動機

本誌に奥ノ谷社長のインタビューを載せたいと編集部会議に諮り、了承を得たのが2020年6月。取材日程も決まっていたが、折しもコロナ第二波が到来。直前に出張がキャンセルとなり、取材は保留となった。

その後も上京するのは難しい時期が続き、8月にはオンラインでの取材を提案した。

しかし、奥ノ谷社長からは二つ返事で断られてしまった。「こんなときだからリアルにこだわろう」と逆に励まされた。

そして実現したリアル取材。奥ノ谷社長がそこにこだわった理由とは――。

自己紹介を兼ねて、一年中短パンを穿いている理由を教えてくださいませんか。

「人と違うカッコがしたいな」と思ってた。短パンを切ったのが初めてでした。

その後、ファッション業界で膝上短パンが流行ったことがあって、インターネットで「短パン」と検索するとボクのプロダグが出てくるもんだから、その頃はテレビ出演の依頼が殺到しました。一年の2/3は短パンで過ごしていましたから。でも、真冬の福井県を歩いているときに「短パン社長なのに長いズボンを穿いているー」って言われて(笑)。それからは覚悟を決めて、一年の3/3を短パンで過ごすようにしています。つまり一年中ってことね(笑)。今ではスーツを買っても全て切って短パンにします。

矢継ぎ早に二冊の著書が出版されましたね。

テレビに出ている頃から出版の打診はありました。ただそれは、ちょっと有名になったのに乗っかって感じて、自分としてはあまり気持ちが乗らなかつた。2019年5月に白馬(長野県)で短パンフェスっていうのをやったんですが、直後にKADOKAWAさんから「ぜひこのタイミングで」って熱烈オファーがきまして。テレビにもめつきり出なくなつたのに。

ちょうどその年、仲の良い経営者が著書を出していて、ライブ意識もありましたし、ほかの友人も勧めてくれたので話を受けることにしました。

一冊目が好評だったのもあり、新型コロナウィルス感染症が拡大し始めた2020年の春、もう一度、KADOKAWAさんから「今こそ、世の中を元気にする本を出しませんか」とオファーがあつて、誰かを元気にできるなら…という思いから二冊目を出版しました。

コロナ禍の中、TANPAN LAB(短パンラボ)をスタートさせましたね。TANPAN LABについてお聞かせください。

TANPAN LABは会員制のコミュニティスペースです。2020年の3月末にオープンさせました。ボクは洋服以外にも、お米、カレー、コーヒ、ビール…など、好きなものがたくさんあります。ボクが「好きだ」と発信すると、「欲しい」と言ってくれる人が現れて。それなら…と作ってみると、みんな喜んで買ってくれるんです。ボクにとつて顧客であり友人でもあるそれらの人のことを思い浮かべながら、「その人たちを楽しませるにはどうしたらいいか」って考えながら行動していった結果、辿り着いたのがラボという形です。

2019年5月に開催した短パンフェス

では、喜んで協力してくれる人が想像以上にいて。フェスは長野県でしたが、東京だったらもっと集まりやすいんじゃないかって。それでこのスペースを創ることにしたんです。オープン後、すぐに緊急事態宣言になって。さすがにその期間は自粛しました。でも、宣言解除後は3月よりも多くの方が会員になってくれました。ラボは空間であり、会員制のコミュニティ。入る人が管理されているというのは(不特定多数が来ないという意味)、コロナ禍においてはメリットに働いた。狙ってたわけじゃないですけど。

人を集めて何かをやつて、喜んでもらう。そこに我々(少林拳法)とTANPAN LABの共通項はあると思つているのですが、これから「人が集まることの意味」ってどんな風に変わつていくと思ひますか？

いい質問だね(笑)。ボクの身のまわりに集まる人も、コロナの影響で減りました。でも、コロナがあつたことで、自分とは違う価値観を持った人が誰なのか、よく分かつたとも思っています。だから、身のまわりに残つた、本当に価値観を同じくしてくれる人とその仲間を大事にすればいいと思つています。この人たちこそ、本当にボクのお客さんであり友人だ！ってね。

コロナを恐れて外に出ない人、度重なる

人の数だけ可能性が生まれる。TANPAN LABというコミュニティ

<https://tanpanlab.jp>

渋谷区神宮前のオシャレな街並みの中、見上げると2階に全面ガラス張りの建物。もとは会社のショールームだったそう。大きなカウンターを中心に広々と過ごせる空間では、セミナーや食のイベントなどが毎月行われる。運営は全て、奥ノ谷社長を募って集まった仲間による手作り。一見すると豪放磊落な印象の奥ノ谷社長だが、ラボでは常に気配りを怠らない。店内にいるメンバーのグラスが空いていれば飲み物を足し、キッチンが混雑していればヘルプに入る。動きを止めないリーダーの優しい気が、このスペースには溢れている。飲食店と間違つて入ろうとする人も後を絶たないそうだが、ここに入れるのは会員だけなので注意されたい。

※ [短パンフェス] 奥ノ谷社長を募う人達が集まり、それぞれの仕事や特技、好きなことを持ち寄って分かち合ったイベント。2019年5月に長野県白馬にて行われた。



メディアの報道に操られ経済まで自粛しようする人に勇気を届けようと一人必死に、SNSはもちろん、こころボでも伝えてきました。その言葉に元気をもらった人もいれば、そうじゃない人もいます。全員には届けられない。仕方ないことです。

そして、何でもコロナのせいにはしない方がいい。いま起こっていることは、コロナ以前から兆候があったことじゃないか？って考えるんです。ただ、コロナを理由に疎遠になった人がいたとしても、本人に理由がない場合もあります。家族のこととか、社員のこととか。だから、本当に大事にしたい人間関係なら、自分も裸になるし、相手にも裸になってもらって、本当のところをちゃんと分かち合わないといけない。ほとんどのビジネスや生活において、人のぬくもりがなければそこには繁栄もない…ということとは多くの人が感じていると思うんです。

じゃあ、限られたチャンスの中で、どう

いう人とぬくもりのある関係を築いていくのか。そういうことがこれからとても重要になってきたわけです。

だから、人数（購入者、フォロワー、会員数など）を増やすことはあまり考えていなくて、それよりも関係性の濃さを高めることの方が重要だと思っています。ここ、伝わってるかな？オンラインも、アナログで直に会うことも、どちらも大切にすべき。目的と状況に応じて、両方を上手く使い分けてこそだよ。

状況や環境の変化をよく見て、自分の考えはしっかり持たれている。そういう感覚はどのようにして育まれたのですか？

自分でもよくわからないんだけど（笑）。やっぱり両親のおかげかな。ボクの兄は難関大学に現役合格して、MBAを取って、今はシンガポールで社長をやっています。弟のボクもそういう道にと思われがちだけど、両親は本当に自由にやらせ

てくれました。小中高とスポーツしかやってなくて、勉強はそっちのけ（笑）。実はファッションのことも全然知らなくて、高校は制服だったから、修学旅行のとき、両親が持たせてくれた洋服を着て行ったら、友人から「奥ノ谷、オシャレだね」って。「マジかよ。オレ、オシャレなのかよ」って（笑）。それが洋服を好きになるきっかけでした。

今は会社でも自由にやらせてもらっていて、色んな所を飛び回っています。実際に行動して、何かに触れる中で感じたことをすぐに行動に移すよう取り組んでいます。そのことによって感性は磨かれています。そのことによって感性は磨かれています。パレル業界の流行に無頓着なところもあって、そういった情報はむしろスタッフが教えてくれます（笑）。

若い世代に対して、どのようなまなざしを持たれていますか？

ボクは40代だけど、SNSは本格的に流行りだす前からやってきました。しかし、今の20代は当たり前前にSNSを使っている…なんだけど、ほとんどの子が、SNSは仕事に繋がらないと思っています。ボクはSNSを通じて人間関係が広がったり強くなったりして、自分の商品が売れたという実感を持っているから、このラボに若い子たちを集めて、SNSは仕事にも活きるんだよって教えたりし

ます。

SNSではフォロワーを増やすことが大事に思えてくるんだけど、それは少し違うと思っています。「フォロワー」は「素性のわからない誰か」じゃなくて、「ちゃんと関係ができて誰か」だと考えた方がいい。だからボクは、自分の知っている誰かを思い浮かべながら、ツイートしたりブログを書いたりしている。それでボクのことをよく知ってもらい、フォロワーと強い関係ができたから、ビジネスにも繋がったと思っています。

奥ノ谷社長はセミナーや塾を運営されています。社員教育も含め、人を育てることについて何を大事にされていますか？

「どんな人にも必ず価値がある」そう信じています。「ダメな社員はいない。ダメな社長がいるだけだ」というのがボクのポリシーで。言い換えれば「ダメな子どもはいない。ダメな大人がいるだけだ」とも言えるかも知れません。

何ができるか・何が得意かとは聞かないのですが、何が好きかということは必ず聞きます。そのことによって個性を活かしてあげることができるとも思っています。そのためには「教える」ことよりも「一緒に学ぶ」ことが大事だと思います。以前、引きこもりの子がセミナーに来たんですが、好きなことを聞いていくとYouTubeだと。それでYouTube



のことを聞いていくと、ものすごく詳しい。楽しそうに話すんです。それを聞かせてもらって、ボクからは「君の好きなYouTubeをたくさんの人と共有する方法があるんだよ」って。そうやって互いの価値と価値を交換する。これが一緒に学ぶことだと思っんです。

相手の好きなことが、自分にとって興味のないこと……ということはないのですか？

そういうときもあります。聞く必要がない」とは思いません。知識や情報として、それらを知っておくことは有益だし、楽しいことだと思っていますから。

どんな人が相手であっても、率直に、対等に向き合うべきだと思っています。上からいくのもダメだし、下からいくのもダメ。人間と人間の関係は、あくまでリスペクトを前提とした信頼関係だと思っからです。

奥ノ谷社長のセミナーでは、SNSを使った発信に必ず触れると思っのですが、世代に関係なく話をされるのですか？

大事なことは、自分の想いをホンキで伝えたいと思える相手に伝えることです。この取材もそう。伝える相手はボクが選ぶそういうこと。

昔はたくさんやっていた講演会やセミナーを今では全然やらなくなったのは、何百人

という受講者が全員、ボクの伝えたことをやるわけじゃないと気づいたから。熱くなるのはその日限りで、冷めるのもはやいんですよ。だってみんなやんねーんだもん(笑)。だったら、少ない人数でも、ホンキでやってみようという気持ちのある人を対象にしたいと思った。

その点から、自分より若い人に熱量を注ぐことが多いです。もちろん、年長者でも本当にやる気のある人には真剣に伝えますけどね。

これから社会に出ていく学生に伝えたいことって何ですか？

自分で何とかしなきゃいけないっていう気持ちとか、仲間をつくる力とか。そういうものだと思っています。

このラボには、30歳以下の若者を集めてセミナーをすることがあるんですが、そこにはIT社長や学生、アルバイトなど、様々な人が集まります。でも肩書は後回し。まずは対等の立場で、互いのことに興味を持つことから始める。それができるのは、僕自身かそういうポリシーで言行一致させているからだと思っています。

人間関係がとんでもフラットなんです。僕らの世界(少林寺拳法)では、やはり「教える側」と「教わる側」という立場がハッキリしている部分が強いです。そのことで良い部分もありますが、これからの時代に

は上手にアレンジしていく必要もあると思っています。

少林寺拳法の歴史がこれからも紡がれていくうえで、その関係性を上手に崩すことは大事だと思っます。その点では、ボクを取り上げたことで、崩しに入っような気はするけど(笑)。

以前、とても厳格な会社でセミナーを行ったことがあるのですが、始める前から「アウェー感」がハンパないわけです(笑)。

でも、ボクはそういうのに動じない性格なので、その後も楽しくセミナーをやりました。その会社は、それから少しずつ社風が柔らかくなって、昨年は営業や開発部門でない女性社員の提案した新商品がヒットしました。いい空気が生まれ、社員の参画意識が高まり、成果に繋がったんです。

本誌の今号のテーマは「刮目」です。奥ノ谷圭祐がいま刮目しているものは何でしょうか？

自分というものをしっかり見つめられているか、ということではないかな。自分の自己開示ができていないのに、人のことを知ろうというのはおこがましいし、自分が勉強していないのに、周りの情報を語るのも筋違いですよ。

自分でよく考えて、自分の気持ちに素直になっって、自分という人間をしっかりと伝



【インタビューを終えて】
編集長・倉本、身長180cm。奥ノ谷社長の大きさが際立つ。その大きなカラダから発する熱量に圧倒された。TANPAN LABに集まる人々の充たされた姿が、その言葉に裏腹の無いことを確信させる。その人柄には、2冊の著書とSNSで簡単に触れることができるので是非。Facebook、Instagram、Twitter 全て実名で検索可能。

【著書】
『ヒトモノカネ
すべてうまくいく会社をつくる
短パン社長の悩み相談室』(ほか)

1,540円(税込)
2020/7/16 発売
単行本 224ページ
出版: KADOKAWA

ほかに『いいね』を
購入につなげる 短パン
社長の稼ぎ方』
(2019/12/6 発売)



えて……。そして、それに応えてくれる人と付き合っっていく、というのがこれからの時代には大事だと思っています。

これだけ情報が身のまわりに溢れてくると、人間はブレやすくになります。ブレた状態で情報を受け止めると良い結果には繋がらませんよね。だから、眼を見開いて時代や社会を観るというのなら、まず自分というものにとことん向き合っっておかないと。

想 志

人づくりにかける
熱い

担当／大原 一純



川島会長の指導技術向上にかける 熱い想

この5年間、重点課題であった「活気ある支部づくり」を振り返っていかがでしたでしょうか？

問題となり、2018年度より、スポーツ庁が日本スポーツ協会に委託して、全競技団体の指導者（コーチ）に、コーチングの指導を始め、少林寺拳法連盟も、この伝達研修を行ってきました。

2016年より5ヶ年計画で、「活気ある支部づくり」、「指導者の魅力づくり」をテーマに、拳士、保護者1,000名より伺った「辞めた理由」に加え、現役学生より部活で「嬉しかったこと、困っていること」などを傾聴し、まず現状把握に努めました。

しかし、大学のアメフト問題や、スポーツ庁の方針により始めたものではなく、私が学生部長を務めていた40年前より、大学少林寺拳法部の悪しき風習撤廃や、指導者の体罰撲滅、さらには指導技術の共有化運動などに力を入れてきた延長線上にあったので、すぐに採用しました。

結果、指導者の常識と拳士・保護者の常識にズレが生じており、指導者は「常識の更新」をはかる必要を感じました。そこで、指導者には、少林寺拳法の目指す「人づくり像」の再確認と、体罰・ハラスメント防止や、「指導技術の向上」を、指導者研修会、大学合宿などで扱い、指導者、学生幹部の意識・言動改善を促しました。

指導技術の向上において、他団体の方法を採用することに、指導者の反応はいかがでしたでしょうか？

比較的スムーズに導入ができました。その理由は、コーチングや、人を元気にする声掛けベップトークは、少林寺拳法の教えや人づくりに合致するもので、かつ、心理学や脳科学の観点からも検証されたものなので、指導者の先生からも、「少林寺拳法の教えに合っている」「さらに学びたい」と感想を頂いています。

中には、「褒めてばかりで、甘やかして人は育たないのでは？」と言う感想も

近年スポーツ、武道団体の暴力、体罰、ハラスメント、禁止薬物使用問題が社会

2018年度より、「指導技術の向上」をテーマに、コーチングやベップトークなど採用された理由を教えてください。



ありましたが、コーチングやベップトールでは、厳しく叱るタイミングや方法、言葉掛けなどの講習もあり、今後伝達してまいります。

今後の指導者の指導技術の向上、並びに、その延長線上にある構想をお聞かせください。

「スポーツの落とし穴／競技至上主義」には注意を払ってきました。大会や昇格という目標は大切ですが、その目標に向かう過程で得る、人的成長に重点を置いてきました。少年少女錬成大会の一定水準以上を評価するなどその一例です。この方針は、今後も変わることはありません。

今後は、先生方の情熱に加えて、さらに変化する常識を更新しながら、魅力的な指導者であり続けるために「学び続けること」の仕組みづくりを行ってまいります。そして、活気ある支部の様子や社会実践を含め、SNSを用い、効果的にアピールをしてゆきたいと思えます。

最後に、この混乱の中、工夫を凝らして拳士とコミュニケーションをとり励まして頂いた先生方に、改めて感謝申し上げます。また、全国高等学校インターネット大会や、無観客の全日本学生大会開催においては、高体連専門部、高校連盟、学生連盟、学生OB OG、審判員、監督

の皆様のご尽力、底力に感動しました。変化を恐れていては、進歩はありません。開祖の教えは普遍的なものです。私達の可能性を信じて、主体的に、同志連帯し、幸福運動に邁進してまいります。





技法解説

実一に帰る

少林寺拳法修行の要諦のひとつ、拳の三訓。そのなかでも最も大切とされる「守」。道を学ぶ者全てが「師の格に至る」ことをまずは目標とすべしと開祖は言われます。この観点から、本コーナーでは様々な法形について触れていきます。

合掌突落

執筆／荒井章士

STEP1. ダウンロード

下のQRコードをスマホ、もしくはアプリストアで「COCOAR2」を検索。アプリは無料です。



STEP2. ダウンロード

アプリを起動して、上記写真をスキャンしてください！



■合掌からの仕掛技

合掌突落について、少林寺拳法教範には「合掌丁字によく似ている技であるが、丁字をとらずに合掌して手を相手の肩より高くあげて、人差指の付根で相手の手首を生かしたまま突き込み押倒す技法である。」と記述されています。

少林寺拳法では、握手の状態を「合掌」と表現します。合掌は、相手に先をとられぬため、技を掛け易くするためにも、手掌の間に指一本くらい入るくらいの隙間を空けておくのがよいでしょう。(写真1) 仕掛技は、攻撃の技法ではなく、相手の機先を察知し、それを未然に制する「先の先」の技です。なお、仕掛技は掴みにいく手(右)と同じ側の足(右)を前にするのが基本です。

■丁字手で崩し波返で逆を捕る

我は、左足を差替えながら、左丁字手を相手の外手首または小手へ打込み、前方へ体勢を崩します。(写真2)

体勢を崩す挙動が止まらぬうちに、相手の右手を肩より高く上げて突き込む、いわゆる波返の要領で逆を捕ります。相手を崩してから、技を極めるまでは一瞬ですが、特に手捌きに大切なポイントがあり、それらは重なり合っていますので注意しながら研究してください。

・我の手掌をもって、相手の大拳頭内側(手掌)を突き込んでいく。(写真3、手掌全体を突き込むと攻めがやや甘くなる)

・相手の手甲を相手自身の前腕に付く方向へ突き込む。(写真4)

・相手の手を、相手自身の肩より高く上げながら、右腕に外旋の捻じりを加える。(写真5)

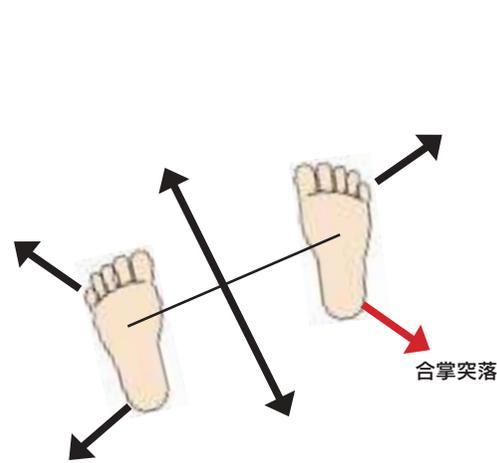
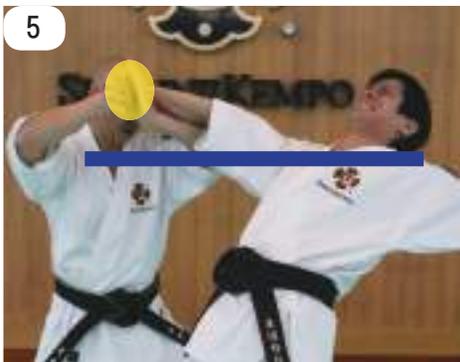


図1 少林寺拳法で用いる「崩し」の6方向 攻者右前

・肩より低い位置で攻める、または外旋が早過ぎると、鉤手になられる。(写真6)

・掛手は、丁字手を打込んだ後、下から添えたまま相手の手を固定しておく。

・捌手は、「外旋」の操作と「突き込み」を併用する。

・掛手、捌手の役割を続けながら、足を捌いて入身する。

・技を極めるには相手の右踵の斜め後方へ倒す。(図1、写真7)

・真後の倒しは、足を出されて逃げられ易い。

・捌手の操作が抜け易く、捌手だけで攻めると鉤手になられ易い。

合掌突落は、極端な身長差がある相手や引きの強い場合等は鉤手になられ易いので工夫をするか、別の技を選択するようにしてください。

※本誌面の撮影写真につきましては、新型コロナウイルススへの感染防止策を行った上で、撮影をしています。

少林寺拳法演武祭 in 久留米



～半ばは他人の幸せを～ 開催決定！！

スローガン:「コロナ禍からの再始動」「被災地支援」「福岡から元気を」

前夜祭: 2021年2月20日(土) 三世師家承継記念祝賀会
演武祭: 2021年2月21日(日) 9:00~16:00 (予定)
場所: 久留米総合スポーツセンター 久留米アリーナ

演武祭プログラム (予定)

午前の部 技術交流会 (一般拳士の部、中学・小学5・6年生の部、親子の部)
参加体験交流会 (被災地支援、女性拳士交流会、介護プログラム、
健康プログラム、絵本プロジェクト紹介、職域交流プログラムなど)
午後の部 演武発表会 (所属長による鎮魂行、親子の部、九州参加各県演武、
九州学連演武、福岡県青年デモチーム演武など)

主催: 福岡県少林寺拳法連盟 協賛(予定): (株)ふくや (株)矢野興業 (株)理創 協力: 九州学生連盟
問合せ: 少林寺拳法演武祭 in 久留米実行委員会 Mail: shorinji_fukuoka-enbusai@yahoo.co.jp

What's New

information

祝儀寄付金 (本部修練) 敬称略

京都翔英高等学校 校長 堤 清彰 30,000円

一般財団法人少林寺拳法連盟は、自他共榮を理想とする“真の武道”を宣言しています。その為、暴力・体罰・各種ハラスメント・薬物使用行為問題に対して正々堂々と立ち向かい、根絶することを目指します。

【相談窓口】 一般財団法人少林寺拳法連盟

TEL:0877-33-2020 E-Mail: shinko-fukyu@shorinjikempo.or.jp

訃報



加藤 義秋 氏
名誉本部委員
071期 大範士九段
2020年9月10日ご逝去
満82歳



松木 長實 氏
名誉本部委員
223期 大範士九段
2020年9月25日ご逝去
満89歳



小池 孝忠 氏
名誉本部委員
064期 大範士九段
2020年9月12日ご逝去
満81歳



松田 欣一郎 氏
名誉本部委員
148期 大範士八段
2020年10月5日ご逝去
満89歳